

サブクーラユニット

液体窒素は -196°C の極低温で、液体窒素貯槽からユースポイントまでの距離が長くなると、配管中の液体窒素(LN2)がガス化(GN2)され、末端での液の供給が不安定になったり、液体窒素ノズルなどを用いていると脈動を起こし、微量のコントロールができないといった現象が起こります。サブクーラユニットは液体窒素過冷却システムで極カユースポイントの近くに設置し、配管中のLN2を過冷却にし、安定的な微量噴霧のコントロールを実現します。

<特徴>

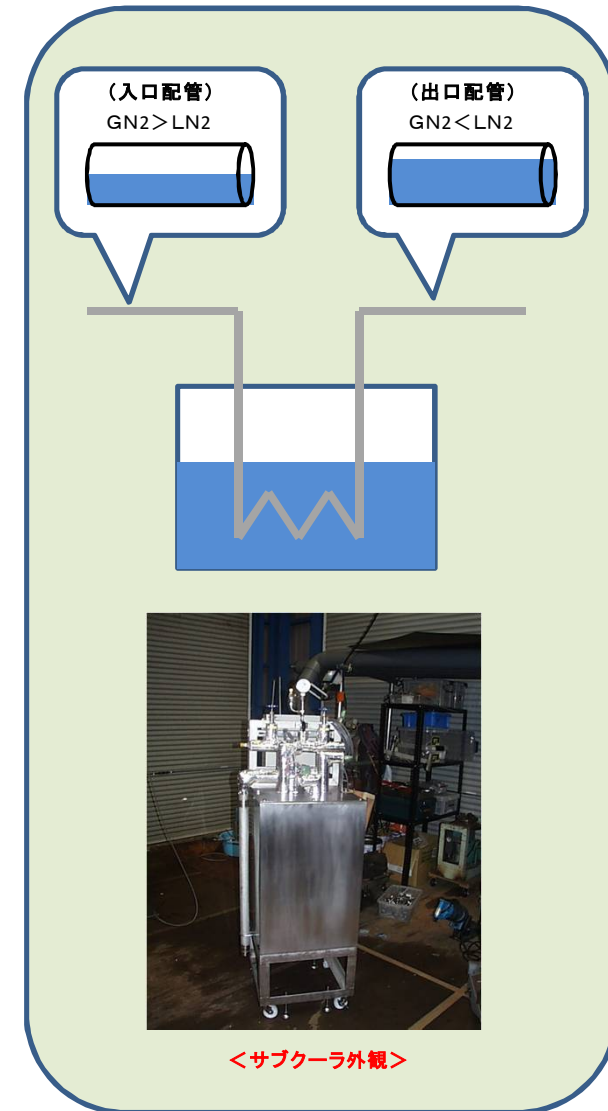
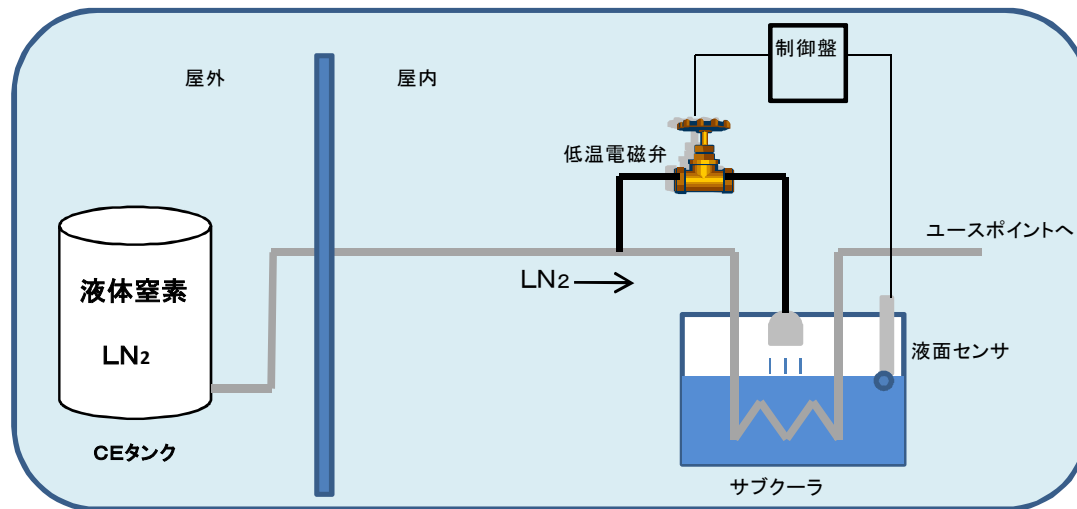
★LN2供給が安定する。

配管中のLN2が過冷却となることにより脈動現象の要因であったGN2比率が極端に下がり、LN2を安定的に供給することが可能となります。液体窒素貯槽からユースポイントまでの距離が長くても安定的に液体窒素をご使用いただけます。

★LN2の微量噴霧が可能となる。

配管中のLN2が過冷却となることで供給ポイントでの開口面積を小さくでき、LN2の微量噴霧が可能となります。

<システムフロー>



<サブクーラ外観>